

防災だより

その84

突然襲ってくる地震に備えるための 3つのポイント

問い合わせ 防災対策係
(☎内線519・531)

福岡県は、福岡市北西沖の玄界灘に位置する「小呂島近海断層帯」と福岡市から太宰府市を経て筑紫野市の直下を縦断する「警固断層帯南東部」が連動して起きる地震の被害想定を公表しました。

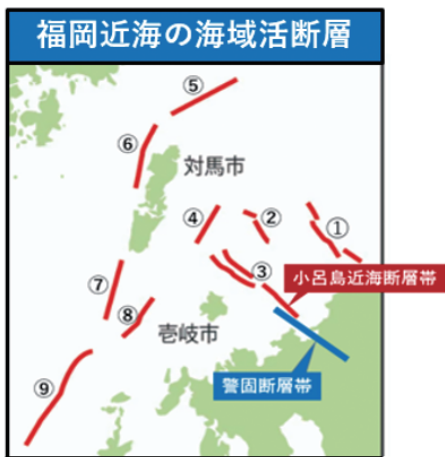
この想定では、福岡市、太宰府市、久留米市など12市町で最大震度「7」を観測し、死者(災害関連死を含む)3,300人、発災当日の避難者は、計36万9,000人に上ると試算されています。

令和6年1月の能登半島地震を踏まえ、福岡県は、これまで調査していな

かった近海の活断層による被害想定を解析しました。その結果、小呂島近海断層帯を震源とする地震が起きた場合、平成17年の福岡県西方沖地震では関連しなかった警固断層帯南東部(陸上部)の活動を誘発する可能性があるとの専門家からの指摘を受けました。そこで福岡県は、両断層帯が連動するとの前提で地震被害をシミュレーションしました。

また、太宰府市直下を貫く警固活断層も、平成17年の西方沖地震以降「歪」が蓄積されたままの危険な状態が続いています。地震はいつ起こるかわかりません。だからこそ、日頃からの備えが何より大切です。

突然襲ってくる地震に備えるための3つのポイントを紹介します。



評価対象の海域活断層帯

- ①白島沖断層帯
- ②沖ノ島近海断層
- ③小呂島近海断層帯
- ④対馬東水道断層
- ⑤対馬北方沖断層
- ⑥対馬上県西方沖断層
- ⑦対馬南方沖断層
- ⑧七里ヶ曾根断層
- ⑨第1五島堆断層帯

小呂島近海断層帯と警固断層帯南東部の連動地震被害想定

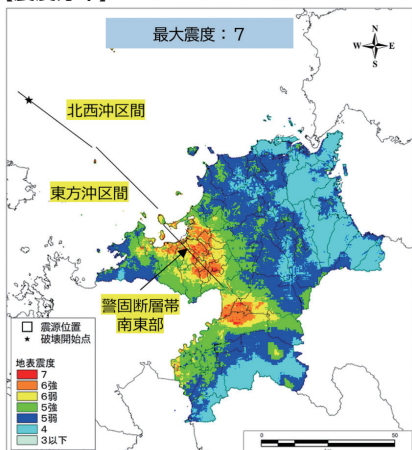
(福岡県の被害想定 ※概算)

区分	被害数
死者数	2,400人
災害関連死数	900人
負傷者数	15,000人
避難者数	369,000人
建物全壊・全焼棟数	45,000棟
建物半壊棟数	94,000棟

(太宰府市の被害想定 ※概算)

区分	被害数
最大震度	7
死者数	300人
災害関連死数	50人
負傷者数	1,200人
避難者数	21,000人
建物全壊・全焼棟数	4,500棟
建物半壊棟数	4,800棟

【震度分布】



家の中の安全対策

その1

- 家具を固定する
- 重いものは下に収納する
- 寝室の家具は減らす
- 出入りに物を置かない

家庭における備蓄

その2

- 飲料水、食料、携帯トイレなど生活物資は最低3日分備蓄する(できれば1週間分)
- 日常や災害時でも使える商品やローリングストックで無理なく備蓄

防災情報の確認と登録

その3

- 市が発信する災害や避難に関する情報を確認する
- 県のふくおか防災ナビ・まもるくんに登録する

※防災情報は命を守るための生活必需品です！

必ず確認・登録しましょう。